

平成 24 年 11 月 17 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 24 年度第 9 回

見直しのチャンス

今朝、いつもより一本早いりょうもう号で北千住から参りました。なんのことはない、いつも泊まっているビジネスホテルの朝食が大変混雑していて食べられなかったからです。翌朝の朝食が混雑することが分かっていますから、そういう場合は、大概前日に貼紙がしてあるのですが、今回はありませんでした。

自分の目の前に起きた出来事を見て、それをどのように受け入れて、どのように自分に活かすか。そして人様にどうやってアドバイスするかという参考材料になると思ってお話しします。

そのビジネスホテルは最近、高崎に同じようなホテルを造りました。少し高めの料金設定のホテルです。私から見てビジネスホテルは今、戦争です。ここ太田・足利界限で泊まろうと思うと、安いホテルでは素泊まり 3000 円か 3500 円くらいです。シムックスの社員が地方で泊まる場合、交渉して 1 泊 2 食 5000 円を割る値段で泊まっています。先ほど副代表幹事が物販業界の変化を話しておられましたが、今は地殻変動が起きていますから従来感覚ではもう太刀打ち出来ない時代に入っています。ビジネスで地方へ出かけて泊まる場合は、だいたい 4000 円前後で朝食付きが普通になったと思っています。ですから、探し方が変わったと思います。

よく二極分化と言います。先日、お昼ご飯に牛丼を食べました。牛丼が 250 円、サラダを付けても 350 円です。そして夜、ペマ・ギャルポさんに来て戴いてお話を伺うのに帝国劇場の地下のお店で食事をしましたら、12000 円くらいでした。で、どちらが美味しかったかということ、牛丼の方が美味しかった。不思議ですね。やはり日本はどこかがおかしいと思いました。価値が滅茶苦茶です。

今、私は自宅を建てておまして、機械警備を入れるのにシムックスから見積書をとりましたが、それを見て驚きました。三十数年前に会社を立ち上げて間もない頃、営業をし

て或る会社から仕事を戴きました。常駐も巡回も機械警備も、警備会社としてできる仕事を全部注文戴きました。見積書を書けるのが私だけでしたから、私が書きました。その時の見積書には訳のわからない項目が沢山あり、お客様から聞かれた時に筋が通って説明できるような項目を、ずらっと書いて出しました。

改めてシムックスから受け取った見積書を見ると、それがそのまま残っていました。前例踏襲、前例踏襲で、機械警備の項目が当時のままかと愕然としました。当時の私の動機は、お客様に説明して、中身がよく分からなくても何となく納得させるような文章をこしらえたのです。契約書も手っ取り早く当時あった大手の警備会社の契約書に倣って作りました。それがそのまま踏襲されていました。途中で私は直すように言ったのです。というのは、大手警備会社の契約書は保険会社の意向通りの契約書になっていて、お客様とトラブルが起きた時に裁判で勝てる内容の文言なのです。お客様の視点に立った契約書に直すように言っておいたのですが、直っていませんでした。一度固まったものは直せないのですね。おかしなことです。

先程のビジネスホテルは朝食代金をとりません。朝食代金は幾らと表示してしまうと、朝食を食べない人にはその分の料金を下げなければならない。セットにしてしまえば、食べないのはお客の勝手ということになり、大目に料金を戴けるわけです。

翻って自分自身を省みると、これは一度作ったものを壊さなければいけないと感じました。大体、棚卸しは5年くらいのサイクルで見直していかないと、どんどん頑迷固陋になってしまうから怖いのです。ですから自民党が二世議員を制限すると判断したのは正しいと思っておりましたが、小泉進次郎さんなどが出てきましたから、見直しになってしまった。

やはりどこかで意識的に自分のやってきたものを見直す必要があるし、壊す必要がある。会社という組織ならば、社長が交代した時に、前の社長のやってきたものを全部点検して、<悪いものは悪い、自分はこうやる！>と判断をしなければいけないと感じます。創業者が代表を続けていくと、良いと思っているものでも時代が変わっていますから、見直しをしなければいけない。ですから、社長を交代した時は見直しのチャンスです。そして社長になって10年経ったら、再度見直しのチャンスだと考える必要がある。

私は今、自宅を造るにあたって、見直しのチャンスだと思っています。自分だけでなく関係した方にも、見直しのチャンスだと伝える良い機会だと思ってお話しているつもりですが、大体右から左に抜けてしまうのが残念です。

見直しのチャンスということで、もう一つ申します。自分が良かれと思ってやることは、それが正しければ正しいほど、相手の心にグサッと突き刺さるものです。良かれと思って

やると、相手の心を傷つける。ですから十分気を付けてやらなければいけません。

例えば、仕事のお付き合いで、以前はよく贈答品を戴きました。2回目くらいまではおとなしく戴いて、その金額に似合ったものをお返ししていましたが、3度目になると戴いたものをそのまま送り返すようにしました。それを繰り返していましたが、大体分かってきたようで、最近はほとんど無くなりました。

年賀状も同じです。「明けましておめでとうございます。今年もよろしく・・・」とお決まりの活字の挨拶だけのものは、そのまま置いておきます。手書きで書いてあるもの、何か近況などが書いてあるものは分けて、じっくり見るようにしています。

判断基準がそれぞれ出来ていて、年賀状はそのように分けます。贈答品については、例えば神藤さんが家庭菜園で作った野菜のように、額に汗して作ったものは有難く戴くようにしています。

恒例の質問

- 昨日一日、嘘をつかなかった方？
- 昨日一日、良い日だったと思う方？

大体皆さんの手が挙がりました。心がけの良い人は手が挙がりますね。

- 昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方？
- 今朝起きてから、何か健康法を実践した方？

先程、朝稽古を見させて戴きました。山崎先生が輝いていました。やはり何か健康法をやった方がよろしいですね。

先日、森光子さんが亡くなりました。お喋りをしていてフッと会話が止まって、寝たのかなと覗いたら息が止まっていたそうです。考えてみると、健康法を自分なりに持っている人はあまり老人ホームにお世話にならないで、自前で生きて自前で住んでいて、ふっと亡くなる方が多いように感じます。極楽往生とはそんなものだと思います。老人ホームに入っていると、温度から食事から手厚い管理・看護で生かされている。良いのか悪いのか分かりません。アメリカでそういう所に入ると、数か月しかもたないそうです。というのは、自宅で住んでいるのと同じような環境で住ませようと考えているようです。日本は過保護で、なるべく生かそう生かそうとしています。ちょっと生命に対する考え方が違うのではないかという気がします。一所懸命働いていて、ふっと息が止まって極楽往生という森光子さんは、良い死に方をしたなと感じました。

- 昨夜寝る時に、明日以降を過去形で考えて眠りについた方？

これは引き寄せの法則と同じようなものです。外国では、「大金持ちになる秘訣」とか「幸

せになる方法」とか色々な言い方がありますが、皆共通しているのは、明日を過去形で考える習慣を持っているということです。眠りに落ちる瞬間に、そういう考え方で眠れた人だと思って戴くとよろしいでしょう。

何度かお話していますが、渋澤栄一さんは三省（自らを省みる）を実践していました。夜、布団に入った時、<今日一日誰に会って、どういう会話をしたか>をずっと思い出して、納得したらすっと眠りに落ちる。こういう生活習慣を身に付けていました。これは論語の「吾、日に吾が身を三省す」という章句を我が物とすべく実践した結果で、久しぶりにお会いした人にも、いつ会って何を約束したか覚えていることが出来たわけです。これが渋澤老人の記憶術ということで世の中に広がりました。夜眠る時の眠り方に秘密があったのです。

ということで、夜寝る時は宝の時間です。どうやって眠るか、眠り方を自分で研究し、開発し、自分なりの眠り方を身に付けた人は、未来がどんどん広がっていくと思って戴くとよろしいでしょう。

日本は今、中国に侵略されようとしている

先ほどちょっと申しましたが、先月、ペマ・ギャルポさんにお会いしました。お話の中で納得したのは、「中国 4000 年の歴史というのは、真っ赤な嘘です」と言っておられました。確かにそうですね。日本は天皇制がありますから、天皇家の血筋は連綿として続いています。ですから何となく中国の皇帝も血筋が続いているような錯覚を覚えますが、それは違います。蒙古を考えて下さい。蒙古が中国を侵略し征服し、元という国を造りました。元は日本に襲来し、日本人を奴隷にした時には、手の甲に穴をあけて数珠つなぎにして引っ張って連れて行ったという歴史があります。つまり中国は、他の国が中国を占領征服し、乗っ取って作り上げたという歴史を持つ国なのです。中国という国土は使っているけれども、まるっきり違う国です。次に元に対抗して、明という国が出来たわけです。明は非常に小さな国でしたが、中国の国土復活を目指しました。次に清という国が出来ました。清は連合政府ですから、ソ連邦のようなもので、中国の中に色々な部族が沢山繋がって清国が出来たわけです。

ですから今の中華人民共和国はどのようなものか……。もちろん共産主義国家ですが、ずっと繋がっているわけではないのです。他の国を侵略して吸収合併していった国家です。チベットもその一つで、完全に合併されてしまったのです。

チベットが占領された時には、チベットはずっと平和ボケの状態だったので大した軍隊もありませんでした。敵が来ても戦わなかった。中国の軍隊に押し寄せられて、その時ト

ップにあったのがダライ・ラマです。中国は、ダライ・ラマは追い出さないし、国教である仏教にも手を付けない、何もしないという大きな約束をしたのですが、乗っ取った後はころっと変わって、ダライ・ラマは追放されました。今、中国で「ダライ・ラマ」とネット検索を二回すると、すぐに警察に捕まってしまうそうです。

ペマ・ギャルポさんは、「今の日本は、中国がチベットを呑み込んだ時とそっくり同じやり方で侵略されている、なぜそれに気がつかないのでしょうか」と言っておられました。

論語解説

論語を読んだら是非、現代に置きかえて解釈する。自分自身に置きかえて、論語を読んだら戴きたいと思います。

本日の論語は、先進第十一です。

【一】子曰く、先進の礼楽に於ける野人なり。後進の礼楽に於けるや君子なり。如し之を用いば、則ち吾は先進に従わん。

先進とは、孔子の最初の頃のお弟子さんたちです。野人とは野蛮人ですから、勉強をあまりしない人達と考えればよろしいでしょう。後進とは、後から孔子のお弟子さんになった連中です。魯国を亡命する前が先進、亡命後が後進とお考えください。

孔子が言うには、先進の弟子たちは礼儀や音楽といった文化面についてはあまり詳しくはない。素朴だけれども、実行力がある。

先頭に立ってどんどんやってのける実行力。世の中のためにこういうことをやりたいと考え実行する力を持っているのが先進です。

後進のお弟子さんたちは、文化的で教養が高い。

先進と後進のお弟子さんたち、どちらを重要視するかといえば、私は実行力のある昔から一緒に馴染んでいた弟子たちが好きだねえ。

この部分も次の台詞も、孔子が昔を懐かしんでいる部分です。

【二】子曰く、我に陳 蔡に從いし者は、皆門に及ばざるなり。徳行には顔淵・閔子・騫・冉伯牛・仲弓。言語には宰我・子貢。政事には冉有・季路。文学には子游・子夏。

孔子一門はいわゆるエリート集団でした。孔子のお弟子さんを自国の内閣総理大臣や官僚に加えると、その国は文化的に高いという事でステイタスが上がりましたから、君主はこぞって採用したかったわけです。

孔子が言うには、最初の頃に一緒にいた弟子たちは皆、就職できなかった。(後進たちは採用してもらえてよかった。)

孔門の四課(四つの学問)で考えると、徳行に優れているのは、顔淵、閔氏騫、冉伯牛、仲弓。宰我と子貢は言語に優れている。冉有、季路はまつりごとに優れているし、子游、子夏は文学的に素晴らしい能力を持っている。

こういった弟子は世の中の役に立つねえ、と孔子が評価しています。各国の君主にむけて、こういう素晴らしい弟子がいるからどうぞ採用してください、とアピールしていると理解してください。

【三】子曰く、^{しいわ}回^{かい}や^{われ}我^{たす}を^{たす}助^{もの}くる^{あら}者に^わ非^{げん}ざる^{おい}なり。吾^{よるこ}が^{ところ}言^なに^な於^して^し悦^しば^しざる^し所^し無^しし。

孔子が言うには、顔回は私の一番弟子だが、私を助けてくれている訳では無い。私の話を全部喜んで聞いている。

先生、ここはこう考えたら如何ですか? というように何か意見を言ったり、質問をされると考えが進むから、何か注文を付けてもらいたいと孔子が言っています。

安岡干支学から・・・

手元にあるのは3年前からずっと使っている手帳です。中を見ますと、干支について書き入れてあります。

平成23年は辛卯(しんぼう・かのとう)は、むごく辛い年で日本のインフラは壊れる。大不況と書いてあります。

平成24年は壬辰(じんしん・みずのえたつ)。どうにかこうにかリーダーが登場して、政治経済は変わった動き方をしているけれども、ヘドロの状況である。

来年は癸巳(きし・みずのとみ)。癸は筋道を立ててゆく。巳は眠っていた蛇が目覚める。言い方を換えると、将来を見通した新興勢力がどんどん生まれると書いてあります。

時代を予測するのが干支学です。一つ一つの出来事ではなく、時代の流れを読んでいくものです。来年は将来を見通した新興視力がどんどん生まれる年です。

再来年(26年)は甲午(こうご・きのえうま)です。これは将来を見通した新興勢力がどんどん生まれるけれども、その年は伸び悩む。甲とは鎧、殻を破って芽を出すけれども、なかなか進み難い。午とは、それに対する反抗勢力が生まれる。ですから新しく生まれた勢力は、そう簡単にいかないで伸び悩むのが再来年です。

平成 27 年は乙未（いつび・きのとひつじ）。けじめがついて、色々な勢力がだんだんはつきりしてシャッフルされて、ぐんぐん伸びだしていく。

平成 28 年は丙申（へいしん・ひのえさる）。これはシャッフルされた新興勢力が、どんどん発展成長していく年です。丙は勢力壮んで大いに成長し、申はどんどん伸びていく。

平成 29 年は丁酉（ていゆう・ひのととり）。新旧勢力が明確にぶつかり合って、新勢力が勝ち、確立する。色々出てきた勢力が大体シャッフルされて、一丁上がりになって、これから日本は良い方向へ進む年。上昇気流に乗り出すのは、平成 29 年です。

私はこの辺りを踏まえながら、時事評論をしています。

時事評論

新聞を読む時、ネットやテレビを見る時、その判断基準として、民主党の打つ無様な手・国債の動向・自然災害を見てください。この判断基準でマスコミの報道内容をチェックしてくださいと何度も申し上げています。

1. 民主党の打つ無様な手

「無様な手」と、私は最初から色眼鏡で見えています。民主党が打つ素晴らしい手というのはあり得ない。多少何かあったとしても、基本的に日本の国を悪い方向へ引っ張る役回りです。生まれた政党ですから、良い手を打つわけがないと決めつけて私は見えています。一つ一つこれは良いことか悪いことかチェックして見ていくのは大変ですから、そういう判断基準で見ると楽です。例えば或る業者さんが良いと判断したら、その業者さんからは安心して商品を仕入れられるのと同じです。

民主党が今回の選挙で打ち出したもの・・・今朝の新聞から気になったものを申します。

- ・原発ゼロを目指す
- ・衆議院議員を 80 人カット
- ・年金制度改革、最低保障年金を創設

色眼鏡でこれをどうやって解釈するかを見ると、また飴玉ばかり出していると感じます。飴玉ばかり出して、それが出来なかったから今叩かれているのが、なぜ分からないのでしょうか。原発ゼロの方向性を目指すと言うけれども、よく読んでみると但し書が色々ついていて、「しかるべき有識者が原発を再開してよいということであれば賛成する」という事が出ている。何が原発ゼロですか。最初から逃げ道を作っているわけです。

衆議院議員を 80 人カットについては、本気で考えていると思いますか？ はなから透けて見えるような公約をよく言いますね。

民主党の打つ無様な手を見ていくと、今回バタバタと三党合意をしましたが、言う事とやる事が違います。最後に泥縄で「解散」と言ってから、急に赤字国債法案を皆で賛成しました。0増5減か4増4減か、最後の最後でひょいっと通すのですから、政治家とは何という無茶苦茶をするものかと思います。あれだけ足の引っ張り合いをしていたのに、解散が決まった瞬間に、揉めに揉めていた法案を通してしまった。全く信用出来ません。

保障年金制度創設についても、与野党が一致して賛成してすっと通しました。駆け込みで、国民のためにならないような法案まですっと通してしまった。火事場の泥棒と似て非なるようなものです。今回10法案通したのは詐欺行為だと思いました。

民主党が今回掲げている選挙公約は全部、飴玉だと思っています。尚且つ、自分たちの政権が無くなった後に、三党合意なるものを事前にやっておいて、政権与党で居たいということをあからさまに出している。何という恥ずかしいことをするのでしょうか。ずっと飴玉をしゃぶり続けたいというのが見え見えです。

今日の日経新聞の世論調査によると、11%が民主党に投票すると言っています。自民党が27%で一番、二番目が維新の13%。後は、みんなの党・公明党・小沢さんの所、皆3%ずつです。とにかく民主党の凋落がはっきりしています。

民主党の打つ無様な手というのは、日本をどんどん悪くする点においてまっすぐ進んでいます。今回、騙されたということがはっきり見えます。

自民党に眼を向けると、今回の公約に「外債によるファンドを創設する」とあります。何のことはない、国内だけで借金が間に合わなければ新手の借金を考えるということです。

過去、日本という国はソ連と戦争する時、中国と戦争する時、アメリカと戦争する時、お金が足りないから外国を回って借金をしまくったのです。尚且つ、源泉徴収という方法を考えて、戦争が終わったらやめると明言して、お金を作った。詐欺まがいのことをしたわけです。今では源泉徴収がなければどうなるのか、と思うくらい税金の大黒柱です。年金制度も同じです。戦費調達のために考えたわけですが、当時は日本人の平均年齢が50歳に届かない頃です。年金制度を創設しても、60歳までには国民はほとんど死んでしまうのだから、支払うことはないと思って作ったのが今の年金制度なのです。最初の考えとは全然変わってしまったわけです。

ということで、戦争をやる時には色々なやり方で嘘八百ついて、国民を騙して戦費調達をしたのが日本です。外国にお金を借り集めて、戦費調達したのが日本です。ですから世界がひっくり返るような状況になった時に、日本の国は公明正大で絶対に約束を守る国だとは言えないですね。昔、そういうことをやったのですから。そう思って私は見えています。

自民党の外債ファンド創設というものから、こういう考えを連想します。

更に自民党の「法人税 20%減税、名目成長率 3%アップ」という公約も、なぜこうやって飴玉を出すのでしょうか。票が欲しいだけで、言うのは勝手という類のものだと思っています。自民党の言っている事も、日本の国が沈没しかねない時に自分たちが叩かれては困るから、まだ赤字の雪だるまを増やして、少しの間自分たちが政権を取ったなら延命する、その為の手を打っているとしか見えません。

他に、石原さんのところは、尖閣諸島に船溜まりを造るとか、自主憲法制定と言っていますが、一番まともなことを喋っているような気がします。

維新は、消費税を 11%にすると書いています。維新はその時の国民の意向ということで、フラフラと動いています。国民の意向が右に行けば右、左に行けば左と、実に信用なりません。

脱原発は小沢さんのところが書いています。TPP参加は維新が書いています。

それぞれの政党の公約をよく見ると、本音が透けて見える。何のことはない、自分と政党が生き残ろうとしてばかりだと思います。生き残るというのは、給料を貰うということです。そんなものは全廃してしまえばよいのです。自分たちで生きていく方策を作って、政治はボランティアでやればよいとすら思います。

2. 国債

国債は国の借金です。国債はどうか、自分たちにどう降りかかるのかという見方をすればよろしいでしょう。

11月27日以降、金融庁は国債を発行しないという予定を組んで進めています。ですから国や県からもらっている仕事は、お金が入らなくなる可能性があります。各自治体は民間企業に対してお金が払えなくなる。今回、赤字国債法案を通したということで何とか払えるでしょうが、そういう動きが当たり前になってきていると思っています。

11月9日の朝日新聞に、地方交付税 4兆円の支払い延期の記事がありました。9月の交付税 2.1兆円が支払われなかったため、都道府県の金利負担は 5700万。基金の繰り替えが 13府県で、3500万の運用費が消し飛んでしまったとあります。更に、兵庫県の小野市では市役所職員のボーナスが延期になってしまった。

ということで、国が国債を発行しなければ、至る所に影響が出ます。今回、ぎりぎり赤字国債法案を通したということはどうにか回るということですが、今朝の新聞などでは「来年の公共投資は激減し、景気に影響があるので、もしかすると消費税は上げない環境が整う可能性が生ずる」とありました。しかし、どのみち消費税は上げるでしょう。

11月10日の読売新聞には、「国の借金最悪 983兆円」と出ていました。ということは、実態は2000兆円だと思います。企業が倒産する時は、負債は大体2倍から3倍はあります。国も同じだと思っています。

3. 自然災害

自然災害は起きます。起きると思って手を打ってください。強毒性の新型インフルエンザもそうですし、大災害や大震災も来年必ず起きると思って、対処した方がよろしい。

以上、国の動きを見る時には、私の申し上げた三つの判断基準をベースにしてお考え戴き、自分自身のものに置きかえて考え、自分自身で結論を出して戴く。そうするとものが見えてきます。

私は来年は自給自足でいかないと怖いと思っていますから、その為の動きを今、しています。具体的にどう進んだかは、その時その時でお話致します。